小 学 校

平 成 5 年 度

教育研究員研究報告書

道　　徳

東京都教育委員会

平成５年度　教育研究員名簿

第１分科会

地区名	学校名	氏名
千代田	お茶の水小	□赤堀美子
大田	馬込第二小	関口豊
世田谷	松丘小	○小山元
杉並	四宮小	□関谷左知子
板橋	赤塚新町小	中丸俊晴

地区名	学校名	氏名
練馬	大泉第六小	岩井一雄
足立	宮城小	福島淳二
八王子	散田小	渡邊静枝
町田	鶴間小	村林正章
小平	小平第二小	佐々木祐介

第２分科会

地区名	学校名	氏名
江東	砂町小	吉田友信
大田	仲六郷小	新井宏明
杉並	高井戸第三小	山岸裕美子
練馬	大泉第二小	上野裕子
足立	竹の塚小	本間祐子
葛飾	東水元小	○四釜謙一

地区名	学校名	氏名
江戸川	西小岩小	石崎武則
府中	四谷小	◎森部治行
調布	石原小	宮坂哲郎
国分寺	第六小	□高橋栄一
三宅	阿古小	松井敏

第３分科会

地区名	学校名	氏名
品川	平塚小	◻小湊洋司
目黒	東根小	名本裕
世田谷	千歳小	橋本由美子
中野	江古田小	○村岡節子
板橋	板橋第九小	遠藤修

地区名	学校名	氏名
八王子	美山小	三縄弘子
青梅	新町小	小山昭夫
武蔵村山	第七小	児玉正教
多摩	北落合小	□毛受直子
五日市	五日市小	藤島雄一

◎全体世話人　◻全体副世話人　○分科会世話人　□分科会副世話人

担当課長	小島　宏	教育庁指導部初等教育指導課
担当指導主事	後藤　忠	教育庁指導部初等教育指導課

研究主題　よりよく生きる力を育てる道徳授業

目　次

◆　研究主題について …… 2

◆　研究の概要 …… 3

◆　研究の成果と今後の課題 …… 3

Ⅰ　一人一人の考えを深める指導法の工夫（第１分科会）

1　分科会テーマ設定の理由 …… 4

2　研究の内容と方法 …… 4

3　児童の実態調査 …… 5

4　研究の構想 …… 7

5　「一人一人の考えを深める」とは …… 7

6　一人一人の考えを深める指導法の工夫 …… 8

7　授業研究事例 …… 9

Ⅱ　一人一人が生きる指導法の工夫（第２分科会）

1　分科会テーマ設定の理由 ……11

2　研究の内容と方法 ……11

3　研究の構想 ……12

4　アンケート調査による児童の実態 ……12

5　一人一人が生きる指導法の工夫 ……14

6　授業研究事例 ……16

Ⅲ　子供が主体的に取り組む授業の創造（第３分科会）

1　分科会テーマ設定の理由 ……18

2　研究の内容と方法 ……19

3　実態調査 ……19

4　「子供が主体的に取り組む授業」とは …… 20

5　子供が主体的に取り組む授業のための手立て ……21

6　授業研究事例 ……23

研究主題　よりよく生きる力を育てる道徳授業

◆　研究主題について

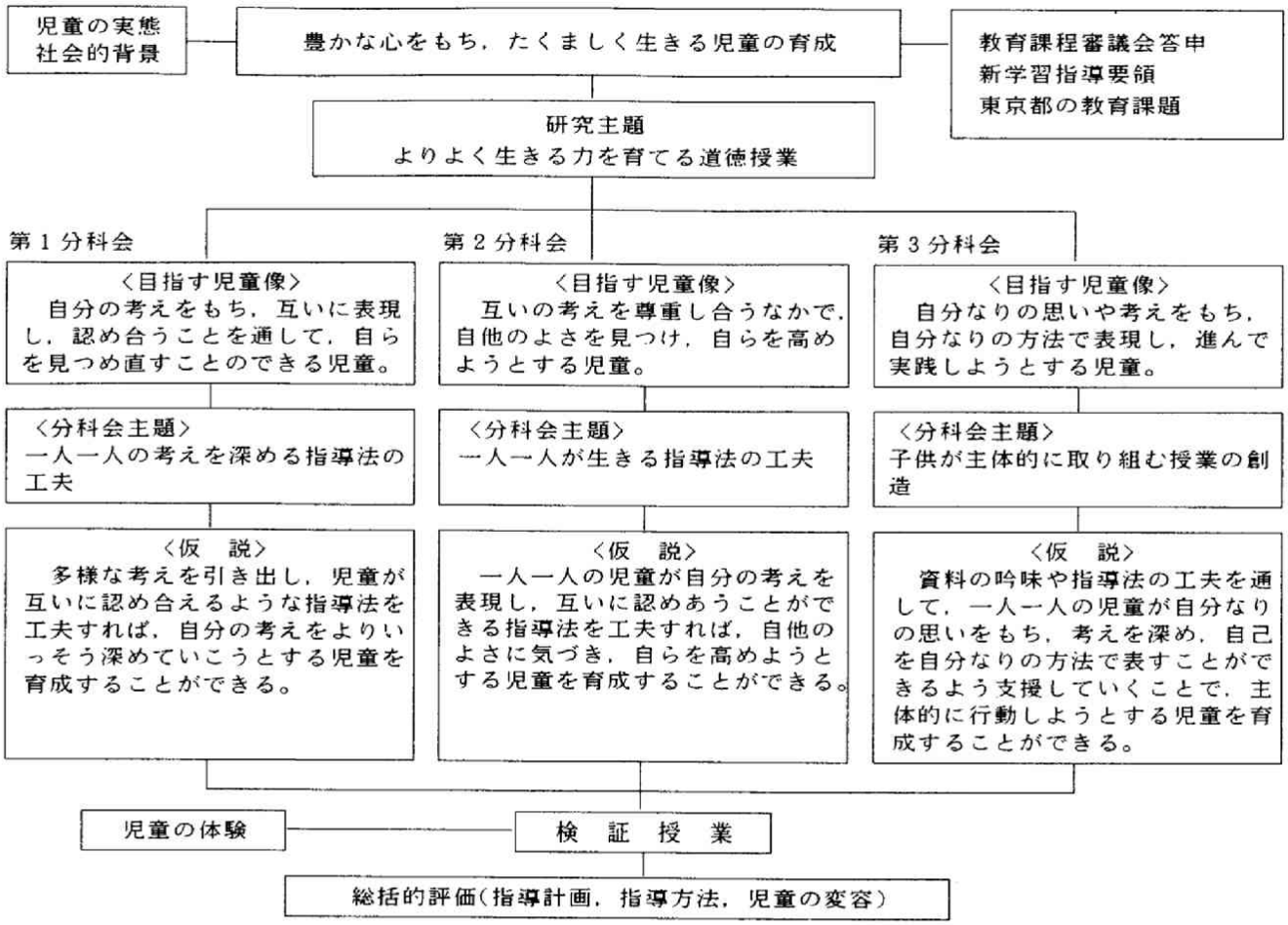
我が国の学校教育は，情報化，国際化，価値観の多様化などの社会の大きな変化に対応し，自ら考え主体的に判断し行動する力を育て，国際社会に貢献し信頼される日本人を育成することをめざして行われている。したがって，これからの教育を進めるに当たっては，一人一人の児童が個性を発揮し，自己実現を図ることができるようにしていくことが大切である。

人間はだれでもが，人間としてよりよく生きたいという願いをもっているものであり，その実現を目指して生きるところに道徳が成り立つ。道徳教育は，一人一人が自らのよさを生かし自己実現を図ることのできる児童の育成を目指し，その基盤としての道徳性を養う教育活動でる。特に，小学校における道徳教育では，人間としてよりよく生きるための心構えや行動の仕方などの基礎的な道徳性を育成することが必要である。その意味から，児童一人一人の願いに応え，よりよく生きる力を育てることは大切である。

道徳の時間は，児童一人一人がねらいとする道徳的価値に照らして自己を見つめ，発達段階に即して，その道徳的価値を内面的に自覚し，主体的に道徳的実践力を身に付けていく時間である。そのためには，児童一人一人が自分なりの見方・感じ方・考え方をもち，表現することができるようにすること，そして，児童一人一人が，相互の見方・感じ方・考え方の異同に気付き，交流することができるようにすること，さらには，児童一人一人が把握した道徳的価値に照らして，自己を振り返ることができ，自らを高めていけるようにすることなどの指導の工夫が大切になってくる。

そこで，「よりよく生きる力を育てる道徳授業」に迫るため，本年度は，指導過程の改善を中心にして研究を進めることにした。また，研究を進めるに当たっては，分科会ごとに小テーマを設定し，仮説を立てて研究主題に迫ろうと考えた。第１分科会では，自分なりの考えを表現し，他の児童の考えを認めることを通して，自らを見つめ直すことのできる児童の育成を目指して「一人一人の考えを深める指導法の工夫」，第２分科会では，互いの考えを尊重し，自他のよさを見つけ，自らを高めようとする児童の育成を目指して「一人一人が生きる指導法の工夫」，第３分科会では，自ら考え，自ら判断し，自ら行動しようとする児童の育成を目指して「児童が主体的に取り組む授業の創造」をそれぞれのテーマとした。これらのテーマを追及するに当たっては，児童のよさや可能性を伸ばすことを中心に，授業研究を通して望ましい道徳授業のあり方を探っていきたいと考え，本研究主題を設定した。

◆ 研究の概要



◆ 研究の成果と今後の課題

第１分科会では，児童一人一人が深く考えることのできる授業をめざして研究を進めてきた。児童が自分の考えを表現できる活動を工夫し，お互いの考えを認め合う機会を充実させることを工夫した。その結果，児童は，深く自分を見つめ直していこうとするようになってきた。

第２分科会は，児童一人一人のよさや可能性を生かすという視点に立って，〈自己を表現する〉〈表現されたことを受け止め，応える〉を中心に「一人一人が生きる」指導法の工夫を行ってきた。その結果，児童は自らの考えを表現するようになり，様々な考えや感じ方に触れる中で，互いに認め合うようになってきた。

第３分科会では，「子供の側に立つ授業」という視点で研究を進めてきた。資料が児童の実態にあっていたとき，心に訴える発問をしたとき，児童一人一人が自分なりに表現できる活動をしているとき，児童が主体的に取り組むようになってきた。さらに，１時間の道徳の時間のみを考えるだけでなく，年間を通して意図的・計画的に，児童を育てていく必要があろう。

今後，各分科会が設定した仮説をより確かなものとするため，残された課題の解決に向けて様々な指導法を追及していく必要がある。今までの成果を生かしながら，児童の思いや願いを十分に生かし，児童が心待ちにするような道徳授業を目指していきたい。

Ⅰ　一人一人の考えを深める指導法の工夫（第１分科会）

1　分科会テーマ設定の理由

科学技術の進歩や経済の発展によって，人々の生活は便利になって久しい。それに伴い，日常生活の中で児童が自分で工夫し，知恵を発揮して物事に取り組む機会が少なくなり生活態度は受動的になってきている。その結果，物事を成就した喜びや感動を味わうことも少なくなり，積極的に他者と交流をしていこうとする意欲も薄れがちになる傾向にある。

さらに現代は，テレビやビデオ，テレビゲームなどのメディアにあふれている。これらと常に接して育った児童は，物事を論理的に考えることや，情緒的に深く味わうことは苦手となり，受けとめた情報に対して短絡的に反応することが多くなってきている。

しかし，個々の児童の内面に一歩入ってみると，自然や芸術の美しさに心をひかれたり，自分に尽くしてくれた人に感謝の気持ちをもったりする面もみられる。また，これらに限らず児童一人一人の内面には，未来にむかって力強く生きていこうとする豊かな可能性が秘められていると感じる。その可能性を引き出し，児童のよりよい人格の形成を図っていくためにはそれぞれの児童のもつよさが，他とのかかわりの中で具体的なものの見方，感じ方，考え方として確立していくことが必要になってくる。

第１分科会ではこのような考えのもとに，全体テーマである「よりよく生きる力を育てる道徳授業」のよりよく生きる力を，「相手のことを考えたり，今までの自分を振り返ったり，これからの自分を見つめなおしたりする力」と捉えた。

このような力を道徳の授業を通して児童が身につけていくためには，一人一人が自分なりの考えをもち，他の児童と積極的に意見を交換してさらに考えを深め，自分を見つめなおしていく過程が大切である。そこで，「一人一人の考えを深める指導法の工夫」を分科会主題として設定した。

2　研究の内容と方法

(1)　分科会主題の決定…全体テーマとのかかわりを考え，主題設定の理由をまとめる。

(2)　実態調査とその考察…目指す児童像に対して児童の実態はどうか調査する。

・プレテストから調査項目を決め，低，中，高学年別に実施。集計，考察。

(3)　研究の構想図作り…児童の実態・目指す児童像・仮説・指導法の工夫を組み立てる。

(4)　「一人一人の考えを深める」とは…概念を共通理解する。

(5)　「一人一人の考えを深める」指導法の考案…児童理解・資料・学習活動・学習形態を工夫する。

(6) 検証授業とその評価・考察…「一人一人の考えを深める」のに指導法は有効であったかを検証するために，研究授業を十回行う。

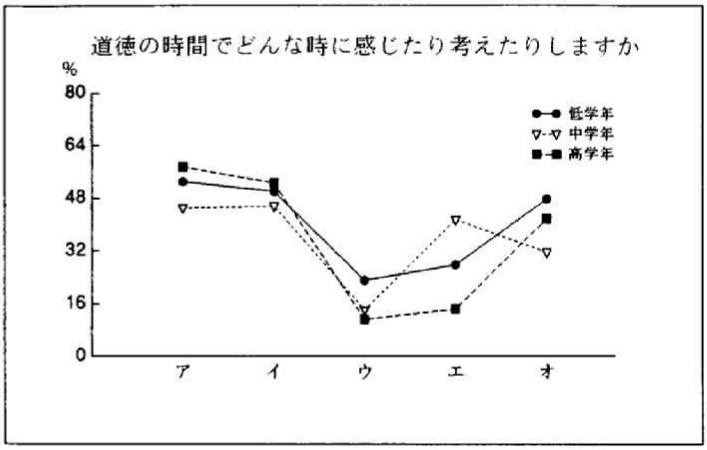
3 児童の実態調査

(1) ねらい…授業での児童の考えの深まりに関する実態を探り指導法の工夫に役立てる。

(2) 方法…一部自由記述を含む選択肢法による質問紙法

(3) 結果と考察

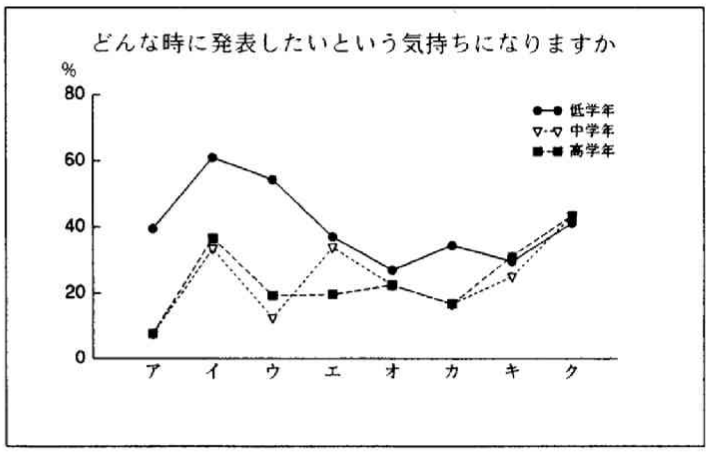
ア



ア．資料を読んだり聞いたりしているとき
イ．友達の意見を聞いているとき
ウ．自分が発言しているとき
エ．自分で書いているとき
オ．先生の話を聞いているとき

資料，先生や友達の話を聞いているときに感じたり考えたりしている児童が多い。資料の吟味・資料提示の仕方などの工夫が大切であると考える。また，児童の発言がお互い聞きやすい学習形態を工夫することも必要である。

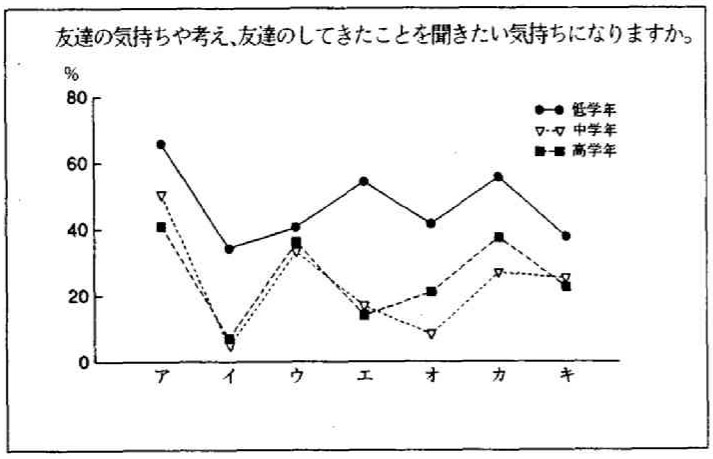
イ



ア．道徳の時間の学習は，大切だと思うから
イ．自分の気持ちや考えを友達に知ってほしいから
ウ．自分の気持ちや考えを先生に知ってほしいから
エ．発表すれば，自分の気持ちや考えがよくわかって言ってよかったなと思うから
オ．先生の質問がわかりやすいとき
カ．道徳の時間に出てくる話に，ジ～ンと自分の心が感じたとき
キ．自分が経験したことを思い出したとき
ク．友達の意見に，賛成や違う意見をいいたいとき

児童は，自分の思いや考えを友達や先生に知ってほしいと願っている。特に高学年になるほど友達の比率が高くなる。そこで，児童の考えを交流する機会を多く用意するとともに，教師や友達との信頼関係を密にし，自由に意見を交流し合える温かい雰囲気づくりをする必要がある。

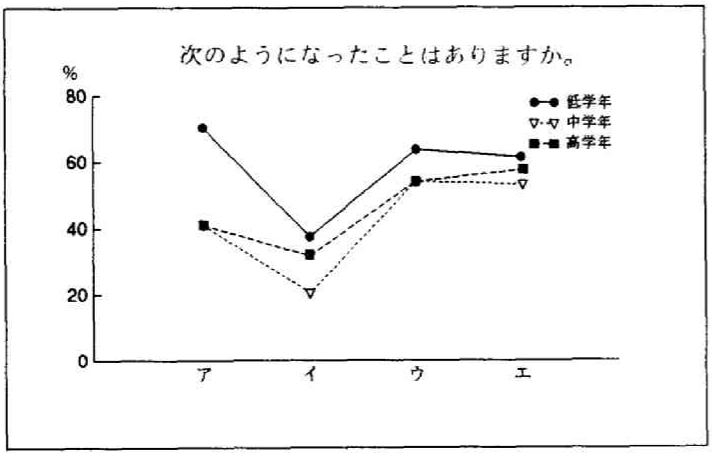
ウ



ア．友達の気持ちや考えを知りたいから
イ．友達の考えを知って，仲良くなりたいから
ウ．友達と自分の気持ちや考えを比べて考えたいから
エ．友達の発表を聞いて，自分がこれまでしてきたことを思い出すかもしれないから
オ．友達の考えやしてきたことを聞いて，自分がこれからどうしていけばいいかわかるから
カ．友達の発表を聞くと，自分の気持ちや考えがはっきりしてまとまるから
キ．自分の考えと友達の意見が同じだったときにうれしいから

友達の考えを自分の考えと関連づけようとする様子がわかる。このことから，授業の中で，多様な考えを引き出す指導法の工夫が大切であると考える。

エ



ア．自分の考えに自信をもったことがある
イ．自分の考えに疑問をもったことがある
ウ．最初の考えとは別の考えをもったことがある
エ．自分とは違う考えもあるなと、思ったことがある

あまり疑問をもたずに，自分の考えに自信をもったり，別の考えを受け入れたりする傾向がみられる。このことから，児童一人一人が主体的にしかも多様に考え，活動できる指導法の工夫が大切であると考える。

4　研究の構想

研究主題

よりよく生きる力を育てる道徳授業

〈児童の実態〉

・自分の考えをもつことができる。
・豊富な知識を身につけている。
・直観的な判断力がある。
・興味や関心のあることについては，よく聞き発言する。
・他とのかかわりの中で，自分の考えを深めていく機会が少ない。

〈目指す児童像〉

◎自分の考えをもち，互いに表現し，認め合うことを通して，自らを見つめ直すことのできる児童。

・深く考えることのできる子
・豊かに表現できる子
・互いのよさを認め合うことのできる子

分科会主題

一人一人の考えを深める指導法の工夫

仮説

多様な意見を引き出し，児童が互いに認め合えるような指導法を工夫すれば，自分の考えをより一層深めていこうとする児童を育成することができる。

〈指導法の工夫〉

・児童理解　・資料の工夫　・学習活動の工夫　・学習形態の工夫

検証授業

5　「一人一人の考えを深める」とは

本分科会では，「一人一人の考えを深める」ということを次のように考えた。

A．道徳的価値について考えを深めること

B．今までの自分を誠実にふりかえり，自分を確かめること。

また，道徳の時間の中で，次のことを通して児童一人一人の考えが深まると考える。

① 自分の考えをもつ。

② 自分の考えを表現する。

③ 友達（他人）の考えを真剣に聴く。

④ 友達（他人）の考えと自分の考えとの共通点や違いに気付く。

⑤ さらに自分の考えを深める。

児童は，上記のようにして考えを深めていくなかで，自分とかかわり，他人とかかわっていく。そして，もう一度自分の考えを確かめることで，道徳的価値を自分のものとして身につけていくことができる。

本分科会では，これらの過程を「考えを深める」とし，研究主題に迫ることにした。

6　一人一人の考えを深める指導法の工夫

(1)　児童理解

心を育てる道徳での指導は，教師と児童，児童相互の信頼関係がもととなる。信頼関係を築くには，一人一人の児童のよさを，その子の持ち味（個性）として認め生かしていこうとする受容的で，共感的で，肯定的な愛情ある児童理解の姿勢が大切である。

○座席表活用などによる個々の記録　○事前調査　○ワークシート　○授業記録

(2)　資料の吟味・開発

○多様な意見が引き出せる資料

○児童の実態に合った資料

・児童が共感できる場面がある

・児童が道徳的価値を自分の経験に照らし合わせて考えられる

(3)　指導過程での学習活動の工夫

導　　入	ねらいとする道徳的価値の内面的自覚に向けて動機づけをする。
展開の前段	児童一人一人が自らの思いを表現し，友達と交流し合って考えを深める。
展開の後段	自らを見つめ直すことができるようにする。
終　　末	本時の学習を振り返り，自分で感じたこと・考えたことを心に整理する。

以上のような指導過程において，ねらいを立て，次のことを工夫し児童の考えを深めさせていく。

ア　資料提示の工夫

○事実をしっかり押さえる

○臨場感をもたせる

○中心場面を大切に扱う

イ　発　問

○資料分析を通して，発問を構成する。その中で，ねらいに直接迫る発問を中心発問とする

○補助発問を吟味する

○発問を最小限にとどめ，話し合いの時間を十分にとる。

ウ　表現活動の工夫

(ア)　役割演技

資料中の人物の考えや気持ちを身体表現等を通して感得させる。

(イ)　話し合い活動

○小グループでの話し合い

・多くの子が発言し，表現できるようにその機会を増やす。

○学級全体での話し合い

・聞き合い，話し合いの規律をつくる。

・発言は，分類・整理し，構造的に板書する。

(ウ)　書く活動

吹き出しやワークシートを活用し，書くことを通して自分を深く見つめさせるようにする。

(4)　学習形態

話し合い活動や役割演技がしやすいように，それぞれの活動にあった形態を工夫する。

○グループ　○コの字型など

7　授業研究事例

(1)　第３学年

ア　主題名　本当の友達（２－(3)）

資料名「ないた赤おに」

イ　ねらい　友達の気持ちを理解し合い助け合っていこうとする心情を育てる。

ウ　指導の工夫

○資料分析により，資料の構成や登場人物の心の動きを把握すると共に，児童の心の動きを予想し，発問を構成する。

○資料提示後，心に残ったことを発表させ，児童の感想を生かしながら，発問につなげる。

○中心発問での話し合いを深めるために，基本発問を最小限にとどめる。

○児童の考えを深めるため，それぞれの発言を学級全体の話し合いに広げる。そのために補助発問や小集団での話し合いを取り入れる。

○児童理解や作文などで把握した児童の信頼・友情に関してのよさや経験を展開後段において発表させる。

エ　指導の実際（中心発問と主な児童の心の動き）

T　青鬼さんが残した貼り紙を読んで，赤鬼さんはどんな気持ちで泣いているのでしょう。（青鬼が残した手紙の最後の部分を指導者が読んでから発表させる。）

C　青鬼さんどうして出ていってしまったの。また戻ってきておくれ。

C　ぼくが悪かった。戻ってきておくれ。ぼくは，我慢できないよ。

C　青鬼さんが出ていってしまったのではしかたがない。

T　「イツマデモ　キミノ友ダチ　青オニ」ここを読んだ赤鬼さんは心の中でどう思ったでしょう。

C　ぼくは今からも君の喜ぶことをしてあげたい。

C　本当の友達は青鬼さんだったと思う。

T　本当の友達とはどんな友達なんだろう。

C　一番大切な友達。自分のことを思ってくれる友達。

オ　考　察

○資料分析を行い，発問を精選したことは，中心発問での話し合いを深めるために有効であった。

○実態調査の考察を基に，BGMを使用するなど資料提示を工夫し，臨場感を高めたことは，児童の心をゆさぶるのに有効であった。

○資料提示後児童の感想を発表させ，そこから話し合いを深めていくことは，児童の主体的な取り組みを促すのに効果的であったが，その後の授業の展開にどう生かしていくか課題がのこった。

○中心発問における補助発問は，児童の考えを深めるのに有効であったが，一人の意見を全体での話し合いに広げていく手立てを工夫する必要がある。より多くの児童が考えを表現し，児童相互の意見の交流が行われるようさらに工夫する必要がある。

Ⅱ　一人一人が生きる指導法の工夫（第２分科会）

1　分科会テーマ設定の理由

教育を進めるに当たっては，児童一人一人のよさや可能性を生かすことを根底に据える必要がある。このことは，道徳教育においては以前から配慮されてきたことではあるが，さらにそれを深くとらえ，意識し，授業実践を積み重ねていくことが大切である。

道徳の時間は，ねらいとする道徳的価値を内面的に自覚させる時間である。そのためには児童一人一人のよさや可能性を生かすことは不可欠といえる。児童は，本来，様々なよさや可能性を内に秘めた存在であり，だれもがそのよさや可能性を発揮し，よりよく生きたいと願っている。一人一人の児童のよさを生かし，互いのよさを認め合うようにすれば，児童は充実感を味わい，さらに，自ら考え，判断し，表現しようとする意欲をもつようになる。

私たちは，一人一人が生きる指導法の工夫を行う上で，〈自己表現する〉〈表現されたことを受け止め，考える〉活動を中心に置いて研究を進めることにした。

そのためには，研究の視点にそった指導過程や資料提示・発問・表現活動などを工夫し，授業の中で互いに認め合えるようにする必要がある。

以上のようなことを中心に，授業実践を積み重ねていけば，研究主題である「よりよく生きる力を育てる道徳授業」に迫ることができると考え，本主題を設定した。

2　研究の内容と方法

(1)　研究主題の設定（研究主題と目指す児童像・仮説・研究構造図）

(2)　実態調査（調査内容の検討・調査の実施・分析・考察）

(3)　指導法の工夫（指導過程・資料提示・発問・表現方法）

(4)　授業研究（指導案の作成と検討・授業の実施・分析と考察）

3　研究の構想

全体研究主題　よりよく生きる力を育てる道徳授業

分科会主題　一人一人が生きる指導法の工夫

目指す児童像　互いに考えを尊重し合う中で，自他のよさを見つけ，自らを高めようとする児童。

仮説　一人一人の児童が自分の考えを表現し，互いに認め合うことのできる指導法を工夫すれば，自他のよさに気付き，自らを高めようとする児童を育成することができる。

検　証　授　業

指導法についての評価

4　アンケート調査による児童の実態

(1)　調査の目的　道徳の時間における児童一人一人の考えや意識の傾向を把握することにより，一人一人が生きる指導法の工夫に役立てる。

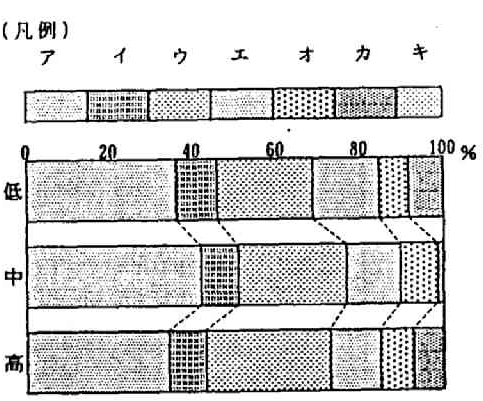
(2)　調査の方法　選択肢法による質問紙法を用い，全学年同一内容とした。

(3)　調査の対象　授業を行う学級の児童（310名）

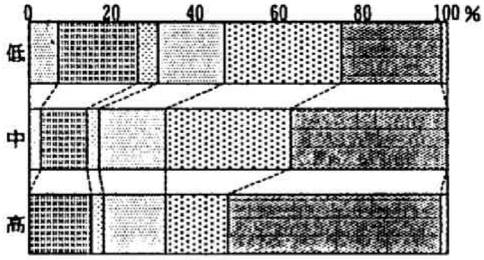
(4)　調査の結果と考察

設問１　自分の意見を発表するとき，どんな方法がいいですか。
ア．手を挙げて発表する。
イ．自由に発表する。
ウ．グループの中で話し合った意見を発表する。
エ．紙に書いたものを読んで発表する。
オ．紙に書いたものを先生に読んでもらう。
カ．先生が指名する。
キ．その他

発表の仕方の好みは多様であり，どの学年にも同じような傾向が見られる。

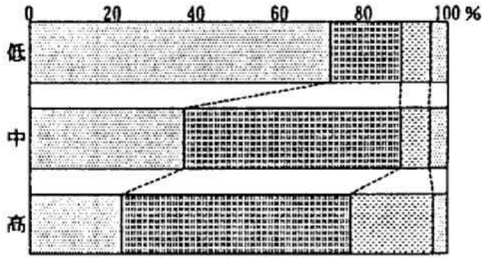


設問２　友達があなたと反対の意見を言いました。
　　あなたはどんな気持ちになりますか。
ア．なんで反対の意見を言うの。
　　もういっしょに遊ばないから。
イ．私と反対の意見を言うなんて，いやだなあ。
　　でも，しょうがない。
ウ．そんな意見もあるのか。でも私の方が正しいに決まっている。
エ．私の考えはまちがえているのかな。
オ．どうしてかな。もう一度考えてみよう。
カ．そういう意見もあるのか。発言してくれてよかったな。
キ．その他



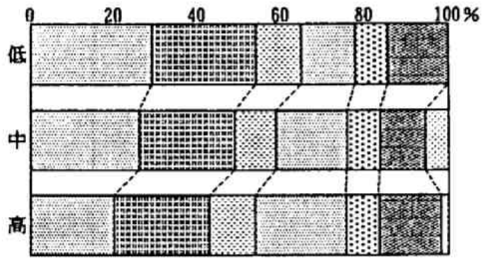
高学年になるほど，友達の意見を受け入れようとする姿勢が見受けられる。

設問３　道徳の時間は楽しいと思いますか。
ア．とても楽しい。
イ．まあまあ楽しい。
ウ．あまり楽しくない。
エ．楽しくない。



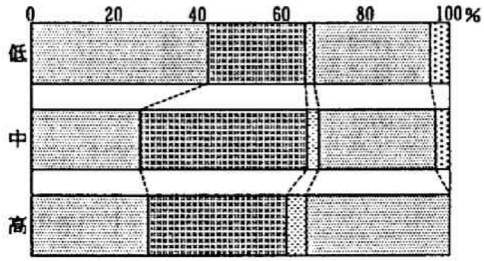
「とても楽しい」「まあまあ楽しい」を合わせると，どの学年も70％を越えている。全学年を通して，道徳の時間は楽しいととらえている。

設問４　道徳の時間が楽しいのはどんなときですか。
ア．テレビを見るとき。
イ．お話を読んだり聞いたりするとき。
ウ．話し合いをするとき。
エ．友達の体験を聞くとき。
オ．いろいろなことを考えるとき。
カ．授業の最後の先生の話を聞くとき。
キ．その他



資料に触れる時が最も楽しいと感じるのは，どの学年にも共通している。学年が進むにつれ，受動的な傾向がみられるようになる。話し合いをさせる手立て，考えさせる手立てがポイントとなる。その他には，テレビ以外の視聴覚教材があげられていた。

設問５　道徳の時間が楽しくないのはどんなときですか。
ア．意見をいうとき。
イ．文章を書くとき。
ウ．友達の意見を聞くとき。
エ．いろいろ考えるとき。
オ．その他



自分の思いや考えを表現することが楽しくないと感じた児童が，どの学年も共通して回答数の６割を越えている。表現活動を工夫し，配慮する必要がある。その他には，挙手しても指名してもらえない時，先生の話を聞く時などがあった。

5　一人一人が生きる指導法の工夫

(1)　一人一人が生きる工夫

事　前

①　児童に道徳の時間の意義を理解させ，真剣に取り組める工夫をする。

②　日ごろから自由に自分の思いや考えが出せる雰囲気作りをする。

③　児童をよく知る。（事前調査，日記，作文，ワークシート，行動記録など）

④　必要に応じて，各教科，特別活動などと関連を図る。

事　中（本時）

	段階のねらい	児童の活動		教師の支援
		自己表現する力	受け止め，考える力	
導入	○価値への方向づけをする。 ○資料への興味・関心を高める。 ○学習の雰囲気を作る。	興味・関心・意欲をもつ ・自分の体験や経験を想起し，発表する。	・発表を聞き，自分の体験や経験を想起する。	☆本時のねらいとする価値や資料への関心・心構えをもち自己を見つめられるようにする。 ・身近な体験や経験を生かす ・アンケートの提示などの工夫 ・視聴覚教材の活用 など
展開前段	○資料をもとに道徳的価値を追求・把握をする。	自分の考えをもち，深める ・自分の思いや考えを表現する。 ・書く ・話す ・つぶやく ・動作化 ・役割演技	・友達の発表を見たり聞いたりする。 ・自分の考えと比べる。 ・自他のよさに気付く。	☆自分のこととして主体的に受け止められるようにする。発表の場を通して多様な価値観に触れ，自己を見つめられるようにする。 ・ワークシートの活用 ・話し合いの工夫（バズセッション，座席の形態など） ・動作化や役割演技 ・指名方法の工夫 ・資料提示，板書，発問の工夫 ◎書けない子への配慮をする。（励ます） ◎児童のつぶやき，表情をとらえ，授業に生かす。（発言を認める，うなずくなど）
展開後段	○ねらいとする道徳的価値の自覚を図る。	自分を見つめ直す ・書く ・話す	・発表を聞き，自他の考えを比べる。 ・自他のよさに気付く。	☆自己の生活を振り返り，深く見つめられるようにする。
終末	○実践意欲を高める	自分を高めようとする		☆1時間の授業を通し，感じたことや考えたことを整理し，まとめられるようにする。 ・教師の説話・ことわざ・歌 ・児童の作文・詩・感想　など

事　後

① ワークシートなどに教師の朱書きを入れ，認め，励ます。

② 家庭との連携を図る。（道徳の授業を公開する。授業の様子や児童の考えを知らせる。ワークシートなどをもとに話し合う。）

③ 生活の場に生かす。

(2) 一人一人を生かす工夫

視　点	自己表現する力を育てるために	受け止め，考える力を育てるために
発　問	・考える視点を明確にする。 ・考える時間を十分とる。	・聞き手によくわかるようにはっきりした声で，ゆっくり話すようにする。
資料提示	・聞く視点を助言する。 ・間を十分とる。	
話し合い	・小グループでの話し合いを活用する。	・話し手の顔を見て聞くようにする。
書　く	・書く視点を明確にする。 ・書く時間を十分とる。	
役割演技 動作化	・意図を明確にする。 ・時間を十分とる。	・見たり，聞いたりする視点を明確にする。
指　名	・児童の多様な考えを引き出し，広めるようにする。	
板　書	・話の展開や登場人物の心の変容が分かるようにする。	・発問や発表された考えが確かめられるようにする。
座　席	・互いの顔が見えるようにし，聞き手の反応を見ながら話すようにする。	・互いに顔が見えるようにし，深く受け止めることができるようにする。

6　授業研究事例

(1)　第１学年

①　主題　美しい心（３－③敬けん）　　資料名「七つのほし」

②　ねらい　美しく清らかなものに触れ，すがすがしい心をもつ気持ちを育てる。

③　一人一人が生きる指導法の工夫

○「自己表現する」ための工夫

・　導入ではBGM，OHPを活用して資料提示し，学習への興味関心が高まるようにする。

・　女の子やお母さんをペープサートにし，役割演技を行う。

・　様々な考えの児童に発表させ，話し合いに広がりをもたせる。

○「表現されたことを受け止め，考える」ための工夫

・　紙芝居を活用し，話の場面に触れた発言は，再度紙芝居を提示しておさえる。

・　ひしゃくの変化と心の様子が結びつく発言は，再確認を図っていく。

・　ねらいに迫る発言内容は，色チョークで囲んで整理する。

④　展開の実際（心情を感じとらせる発問と児童の反応）

T　女の子は犬が水をほしがった時，どんな気持ちでしたか。

C　犬がかわいそう。　　C　犬だってだれだって水を飲みたいのだからあげよう。

C　犬に水をあげたら，お母さんのがなくなる。どうしよう。

T　女の子やお母さんがやさしくしたから，ひしゃくの色が変わっていったのですね。今まで考えた中で，やさしい気持ちがよくわかるのはどういうところですか。

C　犬がいわいそう。　　C　旅人がかわいそう。　　C　苦しいけど水をさがそう。

C　飲みたいけどがまんして，お母さんに水を持っていこう。

C　私（お母さん）は病気で死ぬから，お前がお飲み。

⑤　考　察

・　児童は目と耳から得るイメージ，教師の補説などから，これから始まるお話への興味関心が一段と高まった。

・　中心発問では「女の子やお母さんがやさしくしたから，どんどんひしゃくの色が変わっていく」というように，やさしさに感動した発言が多く出され，児童の心の中に「これがすがすがしい気持ちというものか」「このような気持ちをもちたいものだ」という意識の芽生えをみることができた。

(2) 第５学年

① 主題　助け合う仲間（２－③友情・信頼，助け合い）　資料名「白いテープ」

② ねらい　友達を信頼し，助け合っていこうとする心情を育てる。

③ 一人一人が生きる指導法の工夫

○「自己表現する」ための工夫

・ ワークシートに自己の考えを整理し，発表しやすくする。

・ 板書を活用し，あきらとみんなの両方の心情を追う。

・ 展開後段では，発問を同時に二つ提示しどちらかを選択することで発表しやすくする。

○「表現されたことを受け止め，考える」ための工夫

・ 事前のアンケートを掲示し，自他の考えを比べやすいようにする。

・ 相互指名を行い，友達の考えと自らの考えを比べやすいようにする。

④ 展開の実際

T　リレーの順番を決めている時，みんなやあきらはどんな気持ちでしたか。

C　みんな
・あいつがいると勝てない。
・「ああ，あ」
・あきらにテープを切らせたい。

あきら
・いやだなあ。
・勝手なこといわないで。
・負けたら何を言われるか心配だ。

T　目標を見てあきらはどんな気持ちになったのだろう。

C　もっと心配になってきた。　C　みんなもがんばってるからがんばろう。

T　みんなはどんな気持ちであきらを応援したか。

C　最後までがんばって。　C　練習の成果を出し切れ。　C　一生懸命走って。

T　友達を信頼し励ましていますか，また友達に応えようとしていますか。（展開後段）

C　困っている人に必ず声をかける。　C　上手な人をお手本にしてがんばっている。

⑤ 考　察

・「友達が欲しいなと思ったのはどんなときか」というアンケートは，具体的な場面が児童から挙げられ，自他の考えを比較する上で有効であった。さらに，傾向性を分類するなど整理して提示するとさらに効果が上がる。

・ ワークシートを用いて発表したが，ワークシートを読むだけに留まり，自他の考えを比較し，再度考えるという段階にはいたらなかった。

・ 展開後段では，教師の発問に対する児童の受け止め方に混乱が見られた。発問については児童の立場に立ち，よく吟味する必要がある。

Ⅲ　子供が主体的に取り組む授業の創造（第３分科会）

1　分科会テーマ設定の理由

「よりよく生きる力を育てる道徳授業」を実現するためには，子供が主体的に取り組む授業を創造していくことが大切であると考える。

これからの道徳教育が目標とする「主体性のある日本人の育成」は，教育全体にも通ずるものであり，豊かな道徳性を身に付け，社会の変化に主体的に対応できるとともに，国際社会において自らの役割と責任を果たすことのできる日本人を育成することを示したものである。ここでいう主体性とは，自主的に考え，自律的に判断し，決断したことは積極的かつ誠実に実行し，その結果について責任をとるということであろう。

こうした主体性は，主体的な学習を通して培われる。

子供は，道徳の授業に主体的に取り組んでこそ，自分の中にあるよさや心の弱さに自ら気づくことができる。そして，気づいた子供は，「弱い心を克服し，よさを生かして，よりよき人間として生きたい。」という，人間が本来もっている願いに忠実に生きようと努力するであろう。このようにして子供たちの「よりよく生きる力」は育っていくものであると考える。しかし，このような授業が日常的にできているかといえば，残念ながら反省すべき点のあることを認めざるを得ない。

そこで，第三分科会では子供の側に立つ道徳授業を目指し，「子供たちが主体的に取り組む授業の創造」をテーマとして取り上げることにした。

子供が主体的に取り組んでいるかどうかを見る視点としては，(1)自分なりの思いや考えをもつ(2)友達の考えとの共通点や違いを知り，自分の考えを深める(3)自分の思いや考えを表現するという子供の姿を考えた。道徳の授業に主体的に取り組むことによって，「よりよく生きる力」は育つという仮説のもとに，子供一人一人が，自己の内面を深く考えることのできるような授業の工夫を研究のねらいとし，本主題を設定した。

2　研究の内容と方法

(1)　研究主題の設定（授業の実際と学習に主体的に取り組ませることの重要性）

(2)　実態調査（調査内容の検討，調査の実施，集計，分析，考察）

(3)　子供が主体的に取り組む授業について（研究仮説）

(4)　指導法の工夫

(5)　授業研究（指導案の立案，内容の検討，授業の実施，協議，考察）

3　道徳の授業における子供の主体性に関する調査（東京都公立学校10校353名 9 月実施）

(1)　調査の目的

どのように指導を工夫すれば，子供がより主体的に道徳の授業に取り組むことができるようになるかを知り今後の指導に役立てる。

(2)　調査の内容と方法及び結果

①　内　容

設問 1　あなたは，道徳の授業が好きですか。

設問 2　道徳の時間に意見を言うのはどんな時ですか。

設問 3　道徳の時間に真剣に考えようと思う時はどんな時ですか。

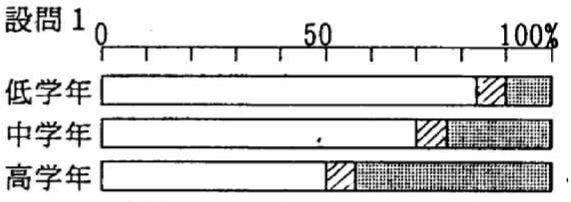
設問 4　自分の意見を発表する時，どのような方法で発表することが好きですか。

設問 5　道徳の授業のことを家の人に話しますか。

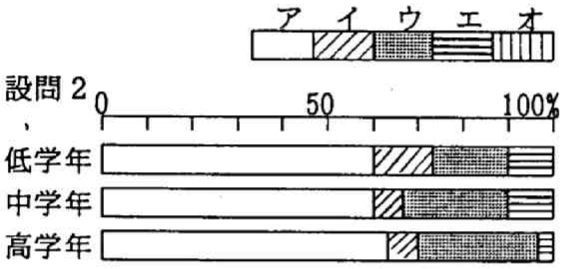
設問 6　あなたにとって心に残る道徳授業とはどのような授業ですか。

②　方法及び結果

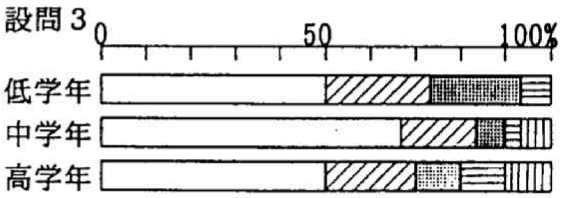
・質問紙法により，低・中・高学年同一内容で実施した。



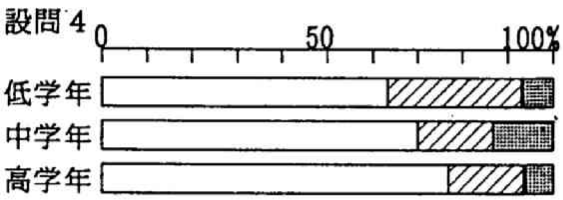
ア 好き　イ きらい　ウ どちらでもない



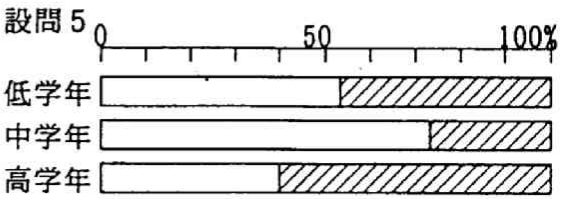
ア 考えがまとまった時　イ 先生にさされた時　ウ 友達の意見に対して意見を言う時
エ 意見を言ったこともない　オ その他



ア お話にでてくる人について考える時　イ 友達の意見を聞いた時
ウ 自分のこれまでの生活について考える時
エ 思ったことがないのでわからない　オ その他



ア 自分の言葉で言う　イ ワークシートに書き・話す　ウ その他



ア ある　イ ない

設問 6（記述式）

低学年は，紙芝居・絵話・ＯＨＰなど使った授業が心に残っている。
中学年は，資料提示を工夫し役割演技を行ったりした授業が心に残っている。
高学年は，資料の中の人物の生き方を考えた授業が心に残っている。

(3) 考　察

この結果から，心に残る資料を選定し，提示方法を工夫し，役割演技などの多様な学習活動を工夫することによって子供は，道徳の授業に興味や関心をもち，主体的に取り組むようになることがわかった。

また，一人一人の子供が自分の考えを表現する機会を多くするとともに，友達と交流してその共通点やちがいを知り，さらに自分の考えを深めていくようにすることも道徳の時間には大切であるということもわかってきた。

さらに，道徳の時間の指導を行うに当たっては，発達段階や一人一人の子供の特性等をよく理解し，それぞれがもっているよさが，十分に発揮されるようにすることの大切さがわかった。

4 「子供が主体的に取り組む授業」とは

「子供が主体的に取り組む授業」とは，子供が自分に問いかけ，自分で考え，自分のこととして積極的に参加する授業のことである。そのために教師は，子供の学習意欲を喚起し，子供が自らに問いかけ，考え，表現できる場を設定し，学習する子供の支援者の役割を果たしていかなければならない。このような考えに基づいて私たちは，子供が主体的に取り組む姿を見る視点を次の３点に置いた。

(1) 自分なりの思いや考えをもつ

自分が，資料の内容や事実をとらえた上で，自分の課題をもつということである。この課題追求の意欲が，授業全体を支えていくのではないかと考えた。

(2) 友達の考えとの共通点や違いを知り，自分の考えを深める

自分の考えたことを自分の意見としてもつことである。そのためには，真剣に思いをめぐらすことが必要である。その中で自分を見つめ，自分に問いかけていかなければならない。また，同じように他の子供の考えを受け止め，自分の意見と比べる中で，さらに自分の考えを深めていくことが大切である。

そのような態度の中で，子供達はねらいとする道徳的価値を内面的に自覚し，道徳的実践力として身につけていくことができるようになるのではないかと考えた。

(3) 自分の思いや考えを表現する

深められた自分の考えを，子供の意志により，口頭やワークシート，役割演技などで表現することである。このような表現活動を通して，ねらいとする道徳的価値を自覚し，自らの中に定着させることができるようになると考える。

5　子供が主体的に取り組む授業のための手立て

主体的に取り組む児童の視点	①自分なりの思いや考えをもつ ②友達の考えとの共通点や違いを知り，自分の考えを深める ③自分の思いや考えを表現する

(1)　指導過程の工夫……（視点①②③）

ねらいとする道徳的価値や資料によって，学習指導の過程は変わってくる。そこで，ねらいに即して指導効果を高めるため，弾力的な指導過程を工夫する。

(2)　資料選定の留意点……（視点①②③）

子供が主体的に授業に取り組むためには，「もっと知りたい」「もっと考えたい」という意欲をもつことが必要である。そのためには，資料は大きな意味をもつ。そこで，以下のことに留意して資料の吟味をすることにした。

・　子供たちの日常生活にも起こりうる場面があり，自分たちの身近なものとしてとらえることができれば，真剣さを引き出すことができる。一人一人の子供の実態を十分把握し，資料の選定をすることが必要である。

・　ねらいとする道徳的価値にせまる場面が子供たちの興味・関心を引くものであれば，多様な心の動きが表れ，授業への主体的な取り組みにつながる。

(3)　資料提示の工夫……（視点①）

資料提示は，資料の選定と同じく重要なものといえる。そのための様々な工夫が必要である。ねらいとする道徳的価値や資料の特質により，効果的な工夫をする。

○切りぬき絵・写真……イメージがふくらみ，興味・関心が高まる。

○実物の提示……理解が増し，興味・関心が高まる。

○効果音……臨場感が出て，興味・関心が高まる。

○ＢＧＭ……資料の世界にひたれるとともに，授業に集中できる。

○語り聞かせ……資料に集中でき，深く考えることができる。

○資料の事前提示……資料内容が十分に把握できる。

これらのほか，ねらいによっては資料を分断して提示することにより，資料の結末にとらわれずに，自己の経験に照らして，自由に自分なりの思いや考えをもつことができ，多様な考えを引き出すことができる。

(4) ワークシートの工夫……（視点①②③）

一人一人がワークシートに自分の思いや考えを書くことは，次のような効果がある。

- 書くことを通して自分を深く見つめ，自分の考えを明確にすることができる。
- 自分の考えを客観的にながめることができ，考えを深めることができる。
- 「吹き出し」は子供たちにとって，書く視点が明らかになり書きやすいものである。書くことが苦手な子も自分の考えを表しやすい。
- 話し合いの場面では，ワークシートに基づいて発表することにより，発表が苦手な子も発言がしやすくなる。
- 話し合いの後，他の人の考えにふれ，自分の思いや考えが深まったり変わったりすることがある。そこで，ワークシートの中に，それらを書き込む欄を設けることもできる。

(5) 話し合い活動の工夫……（視点①②③）

話し合いは自分を表現するとともに，他の人の考えに触れる活動である。自分の考えが深まり広がっていくだけではなく，互いに理解して，認め合う機会でもある。それは，子供たちにとっては大きな喜びとなり，さらなる意欲の源ともなっていく。学級全体での話し合いのみならず，小グループでの話し合いも多く取り入れ，子供が自分の思いや考えを語る機会を増やしたい。

(6) 役割演技の活用……（視点①②③）

役割演技は演技的な表現活動を通して，子供の主体的な学習活動を促していくものである。ねらいとする道徳的価値への共感的な理解を深め，子供自らの道徳的心情や道徳的判断力を高める上で効果的である。ねらいとする道徳的価値に迫る場面での活用を考えたい。低学年においては，簡単な動作化も同じような効果が得られる。

(7) 発問の工夫……（視点①②③）

発問は授業を展開していく上で重要である。子供たちの一人一人が，ねらいとする価値に対して自分の考えをもち，深めることができるよう，主たる発問を精選し，最も考えさせたい場面に十分時間をかけるようにする。また，指導内容についての実態調査に基づき発問構成をすることや話し合いの計画を立てることは多様な考えを引き出す上で効果的である。また，初発の感想を生かした発問構成の工夫も，子供たちに授業への主体的な取り組みを促す効果がある。

6　授業研究事例（第6学年）

(1)　主題　　高め合う友情（2－(3)　信頼・友情）

資料名　「あいつ」（「児童詩教育入門」江口好季著より）

(2)　ねらい

友達と互いに認め合いながら，友情を育もうとする心情を育てる。

(3)　研究主題と関連する手だて

①　資料選定及び提示の工夫

・　詩を資料として用いることで，子供の共感に迫ろうと考えた。本時では，中学3年生が書いた作品「あいつ」を資料として用いた。小学校5年生から中学校3年生までの5年間陸上競技を通して競い合う中で友情を深めていった作者とあいつとの思い出が，綿々と綴られた詩である。また，ねらいに迫るために資料の一部を改作し，さらに，子供にわかりにくい語句を訂正し，不要な記述を削除した。

・　資料を事前に子供に渡し，資料の内容を十分に読み取ることができるようにした。

②　発問の工夫

・　子供を対象に信頼・友情に関する実態調査を行い，その結果を発問構成に役立てる。

・　初発の感想を述べ自分なりの思いや考えを発表することで，資料に対する子供の多様な考えを引き出す。さらに，そこで出された意見を以降の発問に生かすことで，子供が積極的に授業に関わろうとする意欲をもつようにする。

③　考えを深める工夫

・　小グループによる話し合い活動を取り入れ，自分の思いを語る機会を増やす。

・　展開後段の部分で書く作業を取り入れ考えを深める。

(4)　指導の実際（抜粋）

T　資料「あいつ」を読んで心に残ったのはどんなことでしょう。

C　マラソンで何度負けてもあいつのことが好きだというところ。

C　中学2年の運動会で初めてあいつに勝ったところ。

C　あいつに何回負けてもあきらめないところ。

C　あいつのことをライバルだと思っても，友達でいたいというところ。

T　ほとんどあいつに負けたおれが，「あいつが好きだ。」「一生友達でいたい。」という気持ちになっているのはどうしてなのでしょう。（中心発問）

C　陸上部で苦しい練習に耐えてきた仲間だから。

C　最初は負けて悔しかったけれど，いつの間にかあいつが目標になっていたと思う。

C　5年間一緒に走っているうちにいろいろな思い出ができたから。

C　またあいつとマラソンをして，勝ちたいから。

C　あいつと別れ別れになってしまうので，最後はさびしい気持ちになっている。

T　あいつはおれのことをどう思っているのでしょう。（グループごとに話し合い，出た意見をカードに書いて黒板に掲示する。）

・　ライバルでありながら大切な友達　・よきライバル　・両方ともライバル意識があった

・　いっしょにがんばってきた友達　・兄弟みたいに思っている　・負けずぎらいなやつだ

・　いいマラソン相手　⟺　・相手にならない　・おれに勝つのは百年はやい

T　今日の授業を通して，友達についてどう思ったか書いてみましょう。

(5)　考　察

①　自分なりの思いや考えをもつという観点から

・　資料を読んでいる時に資料内容に子供が引き込まれている様子をみることができ，資料は子供の共感を呼んだ。競い合うことを通して高まる友情という内容は，小学校6年生の子供の発達段階によく合致していたと考える。

・　初発の感想についてはほぼ予想していたものが出てきた。しかし，それらの中のどういった所に重点を置いて話し合っていくかを全体の子供に問い直すなどの工夫があれば，さらに子供の主体性を授業の中に生かすことができたと考える。

・　資料が長かったこともあり，子供が内容を十分に読み取って授業に臨めたという点で，資料の事前提示の効果があったと考える。反面，授業の中で資料に対する子供の新鮮な感動が失われてしまうという面もみられた。資料内容がやや複雑な場合や判断力を育てることをねらいとした授業などでは，資料の事前提示が効果的な場合があると考える。しかし，感動資料などでは事前提示は行わない方がよい。

②　友達の考えとの共通点やちがいを知り，自分の考えを深めるという観点から

・　中心発問に対して考える時間や書く活動の時間が十分取れなかった。発問の精選だけでなく，要点を得た板書構成などで，考える時間を十分確保する具体的な工夫が必要である。

③　自分の思いや考えを表現するという観点から

・　小グループでの話し合い活動は，子供が気軽に意見を交わすことができ効果的であった。特に高学年においては有効であると考える。また，発表のなかで相対する意見が出された場合は，それを全体で考える機会を設ける必要がある。